



高雄市・「漢神百貨店」【9/18】

次に、日本が輸出した新幹線「台湾高速鉄道」で台湾の南部・高雄市に向かいました。高雄市では、3年ほど前から「吉野梨」が販売されているということで、漢神百貨店を視察しました。ここでも「吉野梨」をはじめ各産地の梨が販売されていましたが、物価の違いでしょうか、価格的には台北（高島屋）でのそれより、ほんの僅かですが安く感じました。ちなみに、マンゴーが420円程度、トマトが6個入りで530円程度の値段が付けられていました。そのほかにもメロンやブドウをはじめ南国の熱帯果実など豊富な種類があり、日本の百貨店の売り場と全く変わらない光景でした。

現地のガイドに聞くところによれば、「台湾の人は、若い人も年配の人も「贈答品」や「お供え物」には、金に糸目を付けない」とのことであったが、なるほどと実感した。

また、高雄から乗車した帰りの台湾高速鉄道（新幹線）の中で知り合いになった、現地に工場を持つ日本の企業の幹部社員の方が、「それにしても、台湾の人たちは毎日、果物をよく食べます。」と言った言葉が印象に残っています。

とにかく、果物売り場の来店者の数も多く、今後、こういった所に氷川町の農産物の売り場を確保して売り込んでいけたら面白いと感じたところでした。



高雄市「高雄市議会」【9/18】

その後、熊本県や熊本市と「国際交流促進覚書(MOU)」を締結している高雄市の市議会を表敬訪問しました。

高雄市は、台湾第2の都市で人口は277万人。およそ熊本県の4割の面積に1.5倍の人口を擁しており、人口の密度は熊本県のそれよりはるかに高く、台湾(中華民国)における「直轄市」と呼ばれ、中央政府である「行政院」が直轄する都市です。

市長は、閣議にあたる「行政院會議」に出席する資格を持つため、直轄市の市長は強い政治的な影響力を持つと言われてしています。

ちなみに「直轄市」と呼ばれる市は、台北市、高雄市、新北市、台中市、台南市、桃園市の6市であります。

氷川町とは比較にならない規模の大きな都市ですが、今年の10月25日「熊本～台湾高雄線定期便就航」が実現するなど、台湾自体が日本には、友好的なお国柄ですが、台湾の人々が「国父」として敬愛する「孫文」の友人である宮崎滔天の出身地であるからでしょうか、特に熊本には友好的な印象を持っているのでしょうか。

私たち一行も高雄市議会に到着すると同時に議会議員のみなさんや議会事務局の職員の方の数々から拍手で出迎えられるなど「熱烈歓迎」を受けて感激しました。とにかく、台湾の人々の「親日ぶり」を肌で感じたような気がしました。

交流会では、まず、高雄市の概要が日本語による説明で放映され、高雄市議会の陳順利秘書長から「阿蘇熊本空港～高雄」間の定期便の10月就航を待ち望んでいることや、熊本は「阿蘇」や「熊本城」などの素晴らしい観光地に恵まれていること、そして、日本には「バナナ」や「パイナップル」の輸出を通して交流が深まっている旨の歓迎の挨拶がなされました。

歓迎のあいさつの後、氷川町議会を代表して永田議長が、現在、氷川町特産の「吉野梨」を11年前から台湾に輸出しており、3年前から高雄市でも販売されていること、今回、熊本県南フードバレーの調査で御地を訪問しています。残念ながら今年は台風の影響で、当初の予定より5分の1しか輸出できませんでしたが、来年は、おいしい「吉野梨」をたくさん台湾に送ることを約束します。と挨拶を述べました。

次に、藤本町長が今回の台湾訪問した理由である「フードバレー」による市場調査と台湾を訪問するにあたって、是非、高雄市を表敬訪問したかったことを伝えました。

次に、それぞれの参加者の紹介の後、高雄市議会側の蕭永達会長が「永田議長をはじめ議員のみなさんこんにちは、熊本と高雄は、かなり友好関係を持っていて、熊本の観光スポットは、高雄の人にとって大変いい印象として残っています。私は、3回ほど熊本を訪れ、特に印象に残っているのは、「熊本城」と「阿蘇山」です。熊本が一番羨ましいところは「水」がおいしいところで、直接「水」を飲めるところが一番いい印象に残っています」

「高雄と熊本は、友好関係を締結(2013.9.9/「国際交流促進覚書」)以来、お互いの発展について注目しています。数日前のニュースでも「阿蘇山」の噴火を知っていますが、私は「阿蘇山」はすごくいい観光スポットだと思いますし、もう一度、行って見たいと思います。改めて、氷川町議会の皆さん方の来訪を大歓迎いたします。」と歓迎の言葉を述べました。

意見交換会では、氷川町議会から「今回の訪問の目的は、市議会の力を借りて、将来的に高雄市と「友好都市」の締結などできたら幸いです。そして、氷川町の農産物と高雄の農産物などの経済交流ができたらと考えています。」との意見に対し、高雄市議会からは、「これから高雄と熊本の友好を深めてから、直接にお互いの貿易についての交流もできたらという市議会としての目標も持っていますので、宜しくお願いします。」という回答がありました。

また、持参した氷川町の特産品の「吉野梨(新高)」と「い草の製品(ランチョンマットやコースター等)」を贈呈しました。市議会のみなさんは、「吉野梨(新高)」のことを日本語で「大きい、大きい」と喜びの声を連発されていました。

また、高雄市議会の方からは、市議会の庁舎がデザインされたコーヒーマップとプレートを氷川町議会に贈呈、議員全員にネクタイがそれぞれ友好の記念に贈られました。

その後、議場内を見学させていただきましたが、立派な議場にビックリしたと同時に各議員の議席には、たくさんの資料が備えてあり、よく勉強をされている様子を窺い知ることができました。



【まとめ】

現在、日本では少子高齢やそれに伴う人口減少等で農産物の減少消費も年々減少していくことは確実であります。

また、「TPP」をはじめとする国際化の問題等、これからの農業を成長させるには海外に打って出ることも大事な「選択肢」の一つだと思います。

特にアジアの「食」の市場は、2020年までに今の3倍に膨らむと予想されており、

熊本県でも2014年度の農林水産物の輸出額35億4,200万円を2020年度に44億円まで増やす目標を掲げております。

そういった中で、氷川町議会としましては、あらゆる機会を捉えながら氷川町の「ブランド化」、「販路拡大」、「生産者の所得の向上」ひいては「町の活性化」、「産業の振興」に少しでも役に立てるよう頑張っていかなければという思いを強く抱いた実のある研修であったことをご報告いたします。